

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	商学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部)― コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供(学部)― 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部)―

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 前期課程、後期課程5年一貫教育により修了時に学位が取得できる指導体制を確立する。	→研究職コース指導委員会のあり方を再確認し、指導状況の報告の増大。	A
2. 前期課程修了者の一定の資質を確保する。	→各専門分野において他研究科目も含めた履修プログラムのモデルの提示。	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

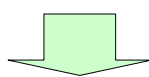
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.2.1	(現状説明) 教育内容の概要については、『大学院履修要綱』で説明するとともに、オリエンテーションを通じて、適確な履修を促進、指導している。
☆ 小項目6.2.2	専門分野の高度化ないしは細分化については、特別講義等の開講によって適宜対応している。また、商学研究科の特性として、一定の実務教育について配慮する必要があるが、これについても寄附講座の提供、実務経験のある講師の招聘によって適宜対応している。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.2.1	「研究職コース」については、2ヶ月に1回の報告を実施することとした。
☆ 小項目6.2.2	特別講義、寄附講座の開講は安定している。
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸ばさせるための方策

小項目6.2.1	5年間を視野に入れた研究指導において、2ヶ月に1回というかなり頻繁な報告が必要かどうか、あらためて検証する必要がある。
☆ 小項目6.2.2	寄附講座については、申し込みがあり次第、開講の可否について迅速に判断する。
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項	
小項目6.2.1	「伸ばさせるための方策」欄に記載したとおり、報告回数については、検討を要す。報告のための指導となつてはならない。
★小項目6.2.2	履修プログラムのモデルの提示を「指標」として掲げたが、商学研究科の場合、ディシプリンも、それに応じた教育内容も多様であり、特定のモデル提示が可能であるかどうかは、再度判断する必要がある。
その他	

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策	
小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★その他 (自由記述)	2009年度末に目標を設定したところであり、この4か月弱の間になしうる改善はすべて行われている。また、この間に新たに改善すべき事項は発生していない。

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○6.2.1「現状説明」はこの項目で求められている「教育内容」の説明になっていません。それぞれのコースで具体的にどのような内容のカリキュラムを展開しているのかについて記述することが望まれます。

【学内委員】

○自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことわかる必要があります。そのためにも、全小項目についてももう少し詳しく現状説明されることを希望します。

○現状説明は要素などを参考にしてもう少し現状について説明してください。

○6-2-1項目の現状説明は項目の内容と適合していません。

○「成果の上がっている事項」と「改善すべき事項」の小項目6.2.1は説明不足で内容が理解できません。「改善すべき事項」については対応する方策についても記述してください。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- ★「効果が上がっている事項」6.2.1:「研究職コース」については、指導教員を含む複数の教員による指導体制を確保するために、従来より指導委員会を組織してきたが、そこでの指導状況が外部からも把握できるようにするために、報告書の書式を定め、その提出を2か月に一度求めることとした。
- ★「改善すべき事項」6.2.1: 研究指導に関して2か月に一度という頻度の提出が適正かどうか、また指導教員の負担となっているのではないかという議論もあり、提出頻度の見直しを検討している。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.2.0.S1	カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度
6.2.0.S2	MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
6.2.0.S3	ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
6.2.0.S4	専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

<個別的な指標>

--	--